

令和元年度「地域活性化推進研究プロジェクト」成果報告書

所属部局名	経済学部	申請者氏名	藤田和史
研究プロジェクト名	ブドウハゼの再生と利活用による地域産業複合体形成		
当初計画に対する目標達成率	85	%	研究プロジェクトの終了時期 令和2年3月
予算配分総額	281,000	円	経費使用総額 円(担当課で記入)

【研究プロジェクト事業の成果】

本研究プロジェクトは、2017年に再発見された紀美野・有田地域のブドウハゼについて、種それ自体と栽培者の高齢化により途絶えつつある育種等栽培技術の記録・保存および、栽培の復活を通じた木蠶産業への原料供給・商品開発による地域産業複合体の形成を目指した。具体的には、現在和歌山県内でハゼの生産に携わる上野保二氏が保有する育種・育苗技術について、国内他産地と比較してその固有性を記録する。また、和歌山県内におけるハゼ栽培の歴史とその展開についても史資料やヒアリング調査を基に検証する。あわせて、県内外の製蠶業者・化粧品メーカーと連携した新製品開発を実施し、産学官を巻き込んだ地域産業複合体を形成することを目指すことであった。

事業としては、県有田振興局と協同して有田川町内においてブドウハゼに関する学習会および採取の体験会を2019年12月23日に実施した。県職員、地元住民および業者ら30名程度が参加し、御前明良氏らによる講演の後、上野保二氏所有の町内の畑においてハゼ樹のハゼ実の採取を行った。また、1月末にも県単独で接ぎ木等の勉強会を実施している。

一方、学術的な知見を蓄積するために、国内の先進地ないし大規模産地での現地調査を実施した。2月28日から3月1日に、大規模産地である愛媛県内子町において、ハゼ実の栽培・利用および取り組みに関して、内子町学芸員小野翠氏にヒアリング調査を実施した。また、3月27日から3月27日から29日にかけて、先進事例である福岡県久留米市において、松山櫨復活委員会代表の矢野真由美氏にヒアリング調査を実施した。

以上から得られた成果は、以下の通りである。①ハゼの栽培を増やすためには、利活用と一体で検討することが必要であること、②需要に基づく安定供給を前提として、ハゼ樹の植栽活動を進める必要があること、③関心を持つ関係人口を構築する必要があるが、イベントのみにならないよう注意が必要であること、④産業化を図る上では既存の業者とともに、産業複合体を形成することが必要であり、関連業者の発掘・育成が重要であること、である。これらの知見を元に、県や関連業者と協働して、ハゼの復活・産業化を進める。

【当初計画段階との対比】

当初計画段階では、県内外の企業訪問を含めた調査検討となる予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によって十分な調査を実施することが困難となった。また、資料収集・検討についても、りら創造芸術高等学校が保有する資料について、同様の理由で調査することができなかった。これらについては、状況が改善した後に実施する予定である。

【今後の展望等】

○ 研究プロジェクトの発展性

先進事例の調査検討で得た知見を元に、県と今後のブドウハゼ復活および産業化について、その方向性・戦略について検討の上、実施事業へ伴走参加そしてアドバイザーとして参加していく予定である。併せて、利活用に向けた関係業者の組織化を県へと働きかけ、先進地のヒアリングに協力してもらった小野氏、矢野氏を交えた研究会を開催し、全国を結ぶ取り組みへと展開していく。

○ 外部資金等への申請実績及び今後の予定

2020 年度募集の科学研究費補助金の基盤(C)への応募を予定している。代表は申請者の藤田とし、共同研究者である大浦ほか、学内外の関係者を含めた組織として応募したい。また、県の補助金、もしくは農林水産省等の補助金への申請も検討したい。

○ 学内における成果の活用（予定も含む）

紀伊半島価値共創基幹下の食農研究教育センターにおいて、関連教員の参加を求めつつ、地域産業複合体形成へ舵を切っていく。

○ 学外における成果の活用（予定も含む）

県との共同事業については、今後とも継続していく予定となっている。また、先進地で得た知見を元に、県内の製蠟業者へ調査を行うほか、学習会に参加していた関係業者と会合を持つ予定となっている。

○ その他特筆すべき事項

特になし

【成果の外部公表の方法及び時期】

研究結果については、食農研究教育センターが 2020 年度末に刊行予定の和歌山農業展開史 3 に、研究論文を執筆する予定である。

※研究プロジェクトの内容・成果等がわかるポンチ絵（写真・挿絵など）や関係資料を添付してください。

経費等使用調査								
配分額	281,000 円		支出額	267,266 円		残額	13,734 円	
経費別内訳対比表								
区 分	配分額				支出額			
	内容	員数	単価 (円)	金額 (円)	内容	員数	単価 (円)	金額 (円)
人件費	謝金	2	10,000	20,000				
	計			20,000				0
備品費								
	計			0				0
運営費	旅費	2	92,500	185,000	旅費	2	119,909.5	239,819
	消耗品費	1	60,000	60,000	内子町資料	1	1,123	1,123
	印刷製本費	1	16,000	16,000	内子町資料	3	2,249	6,747
					地形図	12	397.75	4,773
					蠟燭一式	1	4,554	4,554
					古書 (消耗品)	1	7,688	7,688
					古書	1	2,562	2,562
	計			261,000				267,266
合 計			281,000				267,266	